

# 令和3年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

## 1 結果のポイント

- ・平均正答率は、全国平均を上回った。

	国東市	大分県	全国
平均正答率	69	66	64.7

### <領域別正答率>

教科	領域	国東市	大分県	全国
国語	話すこと・聞くこと	78.4	77.4	77.8
	書くこと	71.6	64.8	60.7
	読むこと	51.5	46.5	47.2

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域で正答率が全国平均と県平均を上回った。
- ・無解答率は、ほとんどの設問で全国平均と県平均を下回り、解答への意欲がうかがえた。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### (1) 話すこと・聞くこと（ 1 二 ）

（出題のねらい：資料を用いた目的を理解する。）

○津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する（国東市 74.3%・全国 74.9%）

- ・「資料を活用する」とは、音声言語だけでは理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すことである。その際、聞き手の立場に立った上で、話す内容を見直すとともに、目的に応じて、どのような資料を準備し、どのように使うかということを確認にすることも大切である。
- ・資料を用いる目的は、説明を補足すること、伝えたいことを強調すること、聞き手に正確に理解してもらうことや一緒に考えてもらうこと、新たな興味をもってもらおうことなどが考えられる。
- ・実際に用いる資料としては、必要な文言や数値などの引用や実物、画像や映像などの使用、図解したものや重要な語句の定義付けなどの明示が挙げられる。その際、目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料の整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方や量などにも注意する必要がある。
- ・実際の授業場面では、情報収集の際に集めた資料をすべて使おうとする児童の姿も見られる。そのような際には、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように指導していくことが大切である。

### (2) 言葉の特徴や使い方に関する事項（ 3 三（2）オ ）

（出題のねらい：文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。）

○丸山さんの【文章の下書き】の中の \_\_\_\_\_ 部オで、「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。

（国東市 40.4%・全国 43.6%）

- ・「すぐに」が動きを表す語句に係って詳しくすることは理解できているが、文の中でどの語句に係るかを理解できていないと考えられる。また、直前にある「遊び終わったら」という言葉を「すぐに」で補足していると捉えてしまったと考えられる。
- ・修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で重要であることに気付くことができるようにすることが大切である。
- ・本設問では、「すぐに」が「かたづける」という動きを表す語句を詳しくしていることを捉えることが求められる。
- ・学習指導に当たっては、修飾語には動きを表す語句を詳しくする場合と、ものや人などを詳しくする場合

があることを理解できるようにすることが大切である。そのためには、修飾語を加えて文を詳しくしたり、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせたりすることを指導すると効果的である。また、修飾語は直前や直後の語句を詳しくすると捉えてしまうことがあるため、離れた語句を修飾する場合もあることを理解できるようにすることも必要である。

### 3 指導の改善のポイント

#### (1) これからの国語科の授業づくりの基本的な考え方

①主体的・対話的で深い学びを促すために、以下の8点について留意し、単元構想と授業実践を行うことが大切である。

ア 児童が興味をもつ教材・題材	イ 魅力的な課題の提示、児童による課題の発見
ウ 学習の見通し、本時の目標（めあて）の明示	エ 課題解決的な学習、既習事項を活用する学習
オ 自分の考えを発表・交流する機会	カ 「できた」「わかった」の実感
キ 「できたこと」「わかったこと」の振り返り	ク 日常生活、社会生活への広がり

②国語科は、児童に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。学習指導要領改訂後も、国語科の言語活動で育成した言語能力は、他教科の基幹になることは言うまでもなく、今後とも更なる言語活動の充実を図り、授業改善を推進していくという方針は不変である。

#### (2) 国語科授業改善の方向性

これまでの国語科の授業を振り返った上で国語科の授業改善の方向性を以下に示す。（具体的留意点）

##### ①適切な言語活動の設定とその充実

ア) 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動であるか

- ・単元を構想する際には、付けたい力と言語活動との領域のミスマッチはないか、よく吟味する必要がある。そして、主たる学習活動の設定時間数は十分であるかも併せて考えておきたい。
- ・言語活動を設定した後、課題解決のための手法は適切であるかを考えていく。場合によっては、児童の学習状況（付けたい力が付いているのか等）を把握しながら、弾力的に修正していくことも大切である。

イ) 多様な図書資料等が有効に活用されているか

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分を詳細に分析する読みの指導が可能となる。また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことの指導にあたる必要がある。
- ・そのためにも、「不読者」を少なくする取組が必要である。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、読書によって豊かな語彙形成につながったり、自分を高めたりできるという視点からも、引き続き読書指導の在り方を見直す必要がある。

質問紙：「学校の授業時間以外に普段（月から金）1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」（単位は%）

	2時間以上	1時間以上2時間より少ない	30分以上1時間より少ない	10分以上30分より少ない	10分より少ない	全くしない
国東市	8.2	12.3	25.1	24.0	7.6	22.8
大分県	8.2	11.5	21.1	24.5	13.5	21.1
全国	7.4	10.8	19.2	23.8	14.7	24.0

ウ) 既習事項（または知識・技能）を活用する言語活動であるか

エ) ウ) のために知識・技能の確実な定着を図っているか

オ) 児童の興味関心を喚起する言語活動であるか

- ・興味関心を喚起する言語活動を行えば、国語科の学習が「好き」という気持ちが強くなり、学びに向かう力につながる。

カ) 発表や交流活動を設定した言語活動であるか

- ・本当に話し合いが必要なのか、必要であれば、どのような形式の話し合いが適切であるのかを吟味した上で行うことが大切である。また、ペア学習やグループ学習のみに終わらないために、児童自身に気付かせることと教師が教えるべきことの整理をしておく必要がある。
- ・話し合う手段をとる際には、「何のために」「何の力を高めるために」行うのかということ、児童自身にも自覚させるように心がけたい。
- ・発表の際、ただ原稿を読み上げるようなものになっていないか、ということも重要な指導のポイントである。例えば、メモをもとに発表する、ということも活用力を高める上で非常に重要である。

## ②児童の主体的な学びを促す「めあて」等の設定、指導に生かせる「より具体的な評価規準」の設定

ア) 適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか

- ・以下の資料を参考にして、設定すること。(大分県教委 HP)  
「児童生徒の主体的な学びを促す『めあて』『課題』『まとめ』『振り返り』の設定例」  
「主体的・対話的で深い学びを実現するための単元(題材、主題)計画 例」

イ) 指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか

ウ) 単元・指導過程・本時の評価規準に整合性があるか

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、整合性をもったより具体的な評価規準(概ね満足できる状況)を設定することが求められる。見取りができてにくい評価規準は、指導・支援が曖昧になってしまうと考えられる。

エ) 「B 概ね満足できる」状況が具体的に想定され、それを判断する場面や方法は具体的で適切であるか

- ・評価の場面は1時間で1、2箇所が妥当である。

オ) 「C 努力を要する状況」の児童への指導や支援は行われているか、またその方法(手段)は有効であるか

- ・具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。

## ③参考資料を活用した授業実践

- 全国学力・学習状況調査の調査問題
- 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」  
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>
- 「平成28年度『小学校学力向上対策支援事業』 個に応じた指導の手引き 小学校 国語科・算数科編」

## (3) その他、国語科授業で取り組むべきこと

### ①学習用語の確実な理解

- ・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。そのために、小学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切である。既習の用語は授業で使わせ、指導者が曖昧な言葉を使わないようにしなければならない。

### ②記述する活動の充実

- ・記述は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域の力を向上させるのに有効である。

例(話す・聞く) インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等  
(書く) 鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文  
(読む) 文章を読んで解釈し、自分の考え(感想や意見、評価、批評等)を明確に書くこと。  
目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

- ・また、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することも有効である。時間・字数・文章の形態や種類・文体・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法・構成等、条件を踏まえる必然性のある課題を設定していきたい。

#### (4) 学校全体で取り組むべきこと

##### ①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。また、国語科以外の教科の時間に、既習の漢字を必ず使用するよう指導することも大切である。

##### ②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。学校司書等と連携し、バランスのよい読書指導をすることが重要である。
- ・学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。例えば、新聞を児童の見えるところに掲示し、自然と情報が入ってくる環境を作ることその第一歩となる。また、国語科だけでなく各教科や領域において、図書館活用の推進をしていきたい。

##### ③全国学力・学習状況調査についての研修や情報共有

- ・全国調査の結果分析を各学校の指導の充実に活かすために、学校全体で情報を共有し、授業改善のベクトルを揃えることが重要である。

## 1. 結果のポイント

- ・正答率は72%で、全国の70.2%を1.8ポイント上回っている。大分県の70%との比較でも、2.0ポイント上回った。
- ・ほとんどの領域で全国の正答率を上回っている。特に「数と計算」の領域は69.6%の正答率で、全国との比較で6.5%、大分県との比較で5.5%上回っている。しかし、「図形」の領域だけは74.7%で、県との比較で0.2%上回ってはいるものの、全国との比較では0.8%下回っている。
- ・「データの活用」の領域においては、領域全体では全国の正答率を0.6%上回ってはいるが、問題によっては下回っているものもある。

## 2. 課題が見られた問題と指導の改善事項

（※全国平均を下回っていたもの・正答率が低かったもの）

### （1）図形 **2** （2）図形の構成の仕方に着目した図形の計量についての考察 （三角形や四角形の面積）

#### ① 出題のねらいと内容

複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるかどうかをみる。

#### ② 解答状況

正答率 71.3% （全国 72.5%）

- ・誤答・・・ 2つの合同な直角三角形を組み合わせてできた2種類の図形の面積について、形を基に感覚的に捉えたり、周りの長さや合わせた辺の長さなどを基に捉えたりして、比べていると考えられる。

また、図形の面積を求めるために必要な情報が全て示されていないと同じ面積かどうかを判断できないと捉えている児童もいたと考えられる。これらの児童は、三角形の面積を求めるために、底辺と高さを捉えることはできているが、複数の図形を組み合わせた面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることはできていないと考えられる。

#### ③ 指導の改善事項

図形の面積の学習では、ある図形を分割して並び替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった基本的な性質を理解し、活用できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、平行四辺形の面積の公式をつくり出すために、方眼上の平行四辺形を分割し、それらを並べ替えて長方形に変形する活動が考えられる。その際、基本的な性質が用いられていることを理解できるようにすることが大切である。

なお、面積を求める公式を学習した後に、児童は公式を用いるために必要な長さが示されてい

ないと面積を求めたり，比べたりすることができないと考えてしまうこともあるため，公式を用いて面積を求めるだけでなく，マス目を数えたり，変形してから面積を求めるなど様々な方法で面積を求める場を設定することも大切である。

(2) 図形 **2** (3) 図形の構成の仕方に着目した図形の計量についての考察  
(三角形や四角形の面積)

① 出題のねらいと内容

複数の図形を組み合わせた平行四辺形について，図形を構成する要素などに着目し，図形の構成の仕方を捉えて，面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

② 解答状況

正答率 43.9% (全国 46.0%)

- ・誤答・・・平行四辺形の面積を求める式や言葉はあっても，高さを求める式や言葉が記述できていない。
- ・平行四辺形の斜辺の長さを高さとして，その二つ分と捉えている。
- ・二等辺三角形を構成する要素などから，必要な情報を選び出すことができず，平行四辺形の面積を求める公式を用いることもできていない。

③ 指導の改善事項

図形の面積の学習では，複数の図形を組み合わせた図形について，面積を求めるために必要な辺の長さや高さを，組み合わせる図形の辺の長さや高さから求めるなど，図形を構成する要素などに着目し，図形の構成の仕方を捉えることができるようにすることが重要である。その際，面積を求めようとする図形の辺の長さや位置関係，分かっている図形の辺の長さや位置関係をと，面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにすることが大切である。

指導に当たっては，例えば，方眼上の台形の面積を求める公式を導くために，等積変形をしたり，合同な図形を組み合わせる平行四辺形に変形したりする際に，変形する前の図形と変形した後の図形との関係を説明する活動が考えられる。その際，組み合わせでできた平行四辺形の底辺や高さ，元の台形の辺や高さとの対応に着目できるようにすることが大切である。

また，平行四辺形の面積を求める公式を導く際に，平行四辺形を長方形に等積変形して面積を求める活動が考えられる。その際，方眼上の長方形の縦と横の辺が，元の平行四辺形の底辺と高さになっていることから，高さが底辺に垂直になっていることに着目できるようにすることが大切である。さらに，底辺を決めたときに，それに対応する高さがどこになるのかを印を付けるなどして，底辺と高さの位置関係を意識できるようにすることも大切である。

(3) データの活用 **3** (3) 統計的な問題解決の方法を用いた考察 (図書アンケート)

① 出題のねらいと内容

データを二次元の表に分類整理することができるかどうかをみる。

② 解答状況

正答率 67.3% (全国 67.5%)

- ・誤答・・・「横の項目」に入る欄を捉えることはできているが、「縦の項目」に入る欄を捉えることができている場合やその逆の捉え方をしている場合があった。また、「縦と横の項目」のどちらも欄を捉えることができている場合も考えられる。

③ 指導の改善事項

二次元の表には、異なる項目間での関係について考察できるというよさがあり、目的に応じて集めたデータを二つの観点から分類整理できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、「読書が好きかどうか」、「9月に図書室で5冊以上借りたかどうか」の二つの観点からデータを調べるとき、読書が好きな人は多いが、図書室で本を借りた人は少ないのではないかという問題意識に基づき、どのようなデータを分類整理すればよいかを考える活動が考えられる。その際、「読書が好きかどうか」、「9月に図書室で5冊以上借りたかどうか」の二つの観点からデータを調べ、四つの場合に分類整理し、二次元の表に表すことができるようにすることが大切である。

なお、例えば、異なる項目間での関係について考察するために、実際にデータを二次元の表に分類整理する活動や、作成した二次元の表を読み取る活動も考えられる。

(4) データの活用 3 (3) 統計的な問題解決の方法を用いた考察(図書アンケート)

① 出題のねらいと内容

**帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。**

② 解答状況

正答率 50.9% (全国 52.0%)

- ・誤答・・・項目の言葉と記号は選んでいるが、その割合がどの数になるのか帯グラフから読み取られていなくて、5年生と6年生の基にする人数を同じ数にして割合をもとめようとしている場合が考えられる。
- ・5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合の違いが一番大きい項目を、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合が大きい項目と捉えたと考えられる。

③ 指導の改善事項

複数のデータについて、項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取ることができるようにすることが重要である。また、各項目の特徴や傾向を読み取ることができるようにすることも重要である。

指導に当たっては、帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかなどを説明できるようにすることが大切である。

なお、集めたデータを分析する際、データの種類や項目の数を考え、目的に応じて、これまでに学習してきている簡単な表や二次元の表、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフといった表現から適切なものを選択して表してみることで、データの特徴や傾向を捉え、結論について判断できるようにすることが大切である。また、自分たちが出した結論について多面的に捉え、考察できるようにすることも大切である。

## (5) データの活用 3 (3) 統計的な問題解決の方法を用いた考察 (図書アンケート)

### ① 出題のねらいと内容

集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかどうかをみる。

### ② 解答状況

正答率 70.8% (全国 73.9%)

- ・誤答・・・「5年生と6年生の読みたい本を調べることができるデータ」と「5年生と6年生に読まれている本を調べることができるデータ」のどちらか一方だけ選べていたり、両方とも選べていなかったりという場合があった。「読みたい本」は、「おいてほしい本の題名」、「読まれている本」は、「最近借りた本の題名」を調べればよいと捉えずに、「利用している曜日」「利用している時間帯」と捉えたデータを選択していると考えられる。

### ③ 指導の改善事項

興味・関心や問題意識に基づき、児童自ら統計的な問題解決ができるようにすることが重要である。その際、統計的に解決可能な問題を設定することや、設定した問題に対してどのようなデータを集めるべきかを判断できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、どのようなデータを集めるべきかを話し合う活動が考えられる。その際、5年生と6年生が図書室の本を借りない理由について分かったことを振り返り、5年生と6年生に図書室でもっと本を借りてもらうために、どうすればよいかを考え、意見を出し合い、集めるべきデータを判断できるようにすることが大切である。

なお、自分たちが学習した分析手法の中でどれを用いて分析するかを計画の段階で視野に入れたり、分析に合わせたデータの集め方などを考えたりすることができるようにすることも大切である。

【参考・引用】 令和3年度

全国学力・学習状況調査報告書 (文部科学省・国立教育政策研究所)



# 令和3年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

## 1 結果のポイント

### ・全体結果

対象生徒数	平均正答率 (%)
<b>国東市 (160 人)</b>	<b>67</b>
大分県 (公立 8,788 人)	66
全国 (公立 903,157 人)	64.6

### ・分類別結果

分類	区分	平均正答率 (%)		
		国東市	大分県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	<b>83.3</b>	82.1	79.8
	書くこと	<b>59.4</b>	58.1	57.1
	読むこと	<b>50.0</b>	49.1	48.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<b>78.4</b>	75.5	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	<b>59.4</b>	57.2	56.0
	話す・聞く能力	<b>83.3</b>	82.1	79.8
	書く能力	<b>59.4</b>	58.1	57.1
	読む能力	<b>50.0</b>	49.1	48.5
	言語についての知識・理解・技能	<b>78.4</b>	75.5	75.1
問題形式	選択式	<b>66.5</b>	65.0	63.9
	短答式	<b>76.4</b>	75.0	74.4
	記述式	<b>59.4</b>	57.2	56.0

- ・平均正答率での全国平均との比較では、+2.4ポイント全国平均を上回った。
- ・領域別の全国平均との差は「話すこと・聞くこと」で+3.5ポイント、「書くこと」で+2.3ポイント、「読むこと」で+1.9ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では+3.3ポイントであった。全ての領域等で県・全国ともに上回る結果となっている。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### 2 意見文を書く（言葉の使い方）

#### 設問一

#### ①趣旨

- ◆書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。

- ◆学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 B 書くこと

- エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。《推敲》

## ②解答類型と反応率

問題の概要	生徒数の割合	
	国東市	全国
意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する		
◎1 Aの欄に4、Bの欄に1と解答しているもの	21.9	24.8
2 Aの欄に4と解答し、Bの欄に1と解答していないもの	30.0	37.1
3 Bの欄に1と解答し、Aの欄に4と解答していないもの	5.0	4.7
4 上記以外の解答	42.5	33.1
5 無解答	0.6	0.3

◎は正解

### ◆分析と課題

○ 解答類型2、3の反応率の合計は35.0%で、解答類型4は42.5%となっている。選択肢にある意見や根拠、具体例といった言葉と、【意見文の下書き】の記述とを結び付けて捉えることに課題がある。

解答類型2の場合は、意見の根拠となる具体例について説明したものであることを捉えることができていないものと考えられ、また、解答類型3の場合は、元の文のままでも、直前の文で述べている意見の根拠であることは分かるが、そのことをより明確にするために「からだ」を加えていることが理解できておらず、直前の文が書き手の意見であることを捉えることができていないものと考えられる。

一番多い解答類型4の場合は、それぞれの文が意見を述べたものか、根拠や具体例を述べたものか、また、段落相互の関係が捉えることができていないものと考えられる。

## ③学習指導に当たって

### 読み手の立場に立って文章を整える

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えるように指導する必要がある。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切である。

例えば、自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかを確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、自分が書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、その上で誤解のない表現やより効果的な表現にしていくように指導することが重要である。

# 令和3年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

## [数学]

### 1 結果のポイント

- ・全国平均との比較では、数学は－2.2ポイント（前回：＋0.2ポイント）となり、全国平均を下回っている。
- ・県平均との比較では、数学は－2.0ポイント（前回：－1.0ポイント）となり、大分県平均を下回っている。
- ・領域別では、「資料の活用」は全国平均を上回っているが、他の3つの領域で全国平均を下回っている。

### 2 課題が見られた問題と指導の改善事項（領域別）

#### （1）図形

##### ①出題の趣旨

図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみる。《問題③》

- ・事象の特徴を的確に捉えること
- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解していること

##### ②解答状況

生徒数の割合（％）

解答類型		国東市	全国
1	1 / 2倍 と解答しているもの。	2.5	3.1
2	1 / 3倍 と解答しているもの。	25.6	18.5
3	1 / 4倍 と解答しているもの。	7.5	6.8
4	1 / 5倍 と解答しているもの。	2.5	3.2
5	1 / 6倍 と解答しているもの。◎	61.9	68.1
・上記以外の解答		0.0	0.0
・無解答		0.0	0.3

正答率は61.9％であり、全国平均正答率の68.1％を6.2ポイント下回っている。

##### ③指導の改善事項

「1 / 3倍 と解答しているもの。」の割合も高いことから、扇形を円の一部として捉え、中心角の大きさに伴って変わる数量に着目し、その関係を見いだすことができるようにすることが考えられる。

円や扇形の学習を進める際に、半径が等しい円と扇形を比較する機会を設定し、扇形を円の一部として捉えることができるように指導することが大切である。

#### （2）関数

##### ①出題の趣旨

関数を用いて事象を捉え考察する場面において必要となる、次のことができるかどうかをみる。《問題④》

- ・事象の特徴を的確に捉えること
- ・関数の意味を理解していること

##### ②解答状況

生徒数の割合（％）

解答類型		国東市	全国
1	①に 影の長さ と解答し、②に 経過した時間 と解答しているもの。◎	40.6	48.0

2	上記1以外で、①に 影の長さ と解答しているもの。	5.6	3.6
3	上記1以外で、②に 経過した時間 と解答しているもの。	0.0	0.3
4	①に 経過した時間 と解答し、②に 影の長さ と解答しているもの。	31.9	30.7
5	上記4以外で、①に 経過した時間 と解答しているもの。	0.6	0.8
6	上記4以外で、②に 影の長さ と解答しているもの。	0.6	0.2
・上記以外の解答		8.8	7.1
・無解答		11.9	9.3

正答率は40.6%であり、全国平均正答率の48.0%を7.4ポイント下回っている。

### ③指導の改善事項

「①に 経過した時間 と解答し、②に 影の長さ と解答しているもの。」と「無解答」の割合が高いことから、関数の意味を正しく理解していない生徒がいるので、様々な事象の考察を通して「〇〇は〇〇の関数である」という形で表現する活動を取り入れることが考えられる。

日常的な事象において伴って変わる二つの数量の対応関係について考察する際に、関数を用いてその事象の特徴を捉えることができるように指導することが大切である。

## (3) 数と式

### ①出題の趣旨

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。《問題6(2)》

### ②解答状況

生徒数の割合 (%)

解答類型	国東市	全国
(正答の条件) 〈 $4(n+3)$ と計算している場合〉 次の(a)、(b)について記述している。 (a) $n+3$ は自然数だから、 (b) $4(n+3)$ は4の倍数である。 〈 $4n+12$ と計算している場合〉 次の(c)、(d)について記述している。 (c) $4n$ 、 $12$ が4の倍数で、4の倍数の和は4の倍数だから、 (d) $4n+12$ は4の倍数である。		
(正答例) ・ $4(n+3)$ $n+3$ は自然数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。したがって、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数である。(解答類型1) ・ $4n+12$ $4n$ 、 $12$ が4の倍数で、4の倍数の和は4の倍数だから、 $4n+12$ は4の倍数である。したがって、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和		

はいつでも4の倍数である。(解答類型6)				
1	$4(n+3)$	(a)、(b)について記述しているもの【◎】	28.8	28.3
2		(a)のみを記述しているもの。【○】 (正答率) ・ $4(n+3)$ $n+3$ は自然数だから。	0.0	0.3
3		(b)のみを記述しているもの。【○】 (正答率) ・ $4(n+3)$ よって、 $4(n+3)$ は4の倍数である。	12.5	16.9
4		(a)、(b)について記述していないもの。 【○】 (正答例) ・ $4(n+3)$	9.4	5.5
5		(a)、(b)のいずれかの記述に誤りがあるもの。	0.0	0.1
6	$4n+12$	(c)、(d)について記述しているもの【◎】	1.3	1.9
7		(c)のみを記述しているもの。【○】 (正答例) ・ $4n+12$ $4n$ 、 $12$ が4の倍数だから。	0.0	0.1
8		(d)のみを記述しているもの。【○】 (正答例) ・ $4n+12$ よって、 $4n+12$ は4の倍数である。	3.8	8.7
9		(c)、(d)について記述していないもの。	5.0	4.0
10		(c)、(d)のいずれかの記述に誤りがあるもの。	0.0	0.1
11		$4 \times \square$ の $\square$ に $(n+3)$ 以外の文字を用いた多項式を入れて記述しているもの。	1.9	2.0
・ 上記以外の解答			18.8	16.7
・ 無解答			18.8	15.4

正答率は55.6%であり、全国平均正答率の61.8%を6.2ポイント下回っている。

### ③指導の改善事項

「 $4n+12$ 」「 $4(n+3)$ 」のみの解答と「無解答」の割合が全国よりも高いことから、 $4n+12$ を $4(n+3)$ と変形できるように指導することに加え、 $n$ が自然数のため、 $n+3$ も自然数になり、同時に整数であることを確認した上で、「 $n+3$ が自然数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。」もしくは、「 $n+3$ が整数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。」と表現することができるようにするなど、説明を洗練させていく活動を取り入れることが必要と考えられる。

事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。

(4) 数と式

①出題の趣旨

数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。《問題6(3)》

②解答状況

生徒数の割合 (%)

解 答 類 型		国 東 市	全 国
(正答の条件) 「○○は、◇◇である。」という形で、次の (a)、(b) を記述しているもの。  (a) ○○が、「四角で囲んだ4つの数の和」である。  (b) ◇◇が、「左上の数と右下の数の和の2倍」である。 ~~~~~ (正答例) ・ 四角で囲んだ4つの数の和は、左上の数と右下の数の和の2倍である・(解答類型1)			
1	(a)、(b)について記述しているもの。【◎】	23.8	30.0
2	(b)のみを記述しているもの。 (正答例) ・左上の数と右下の数の和の2倍である。【○】	0.0	0.3
3	(b)についての記述が十分でないもの。 (a)についての記述がないものを含む。	0.6	2.0
4	数の位置に着目しているが、成り立たない事柄を記述しているもの。 (a)についての記述がないものを含む。	7.5	6.9
5	$2n + 7$ について記述しているもの。	3.8	2.5
・上記以外の解答		34.4	28.4
・無解答		30.0	29.9

正答率は23.8%であり、全国平均正答率の30.3%を6.5ポイント下回っている。

③指導の改善事項

「上記以外の解答」と「無解答」の割合が高い。具体的な解答例として「四角で囲んだ4つの数の和は、2つの数の和の2倍である」とどの位置にある二つの数の和の2倍になるかを見いだして説明することができなかつたと考えられる。

数の性質について成り立つ事柄を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。

(5) 関数

①出題の趣旨

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。《問題7(2)》

②解答状況

生徒数の割合 (%)

解 答 類 型		国東市	全 国
<p>(正答の条件)                      次のことについて記述しているもの。                      〈グラフを用いることについて記述している場合〉                      次のことについて記述している。                      (a) 直線のグラフをかいて利用すること。                      (b) <math>y = 120</math> のときの <math>x</math> 座標を読むこと。</p> <p>〈式を用いることについて記述している場合〉                      次の(c)、(d)について記述している。                      (c) 比例の式又は一次関数の式を求めて利用すること。                      (d) <math>y = 120</math> を代入して、<math>x</math> の値を求めること。</p> <p>〈表や数値を用いることについて記述している場合〉                      次の(e)、(f)について記述している。                      (e) 表や数値を用いて割合を求めて利用すること。                      (f) 砂が落ちきるまでの時間が120秒になる砂の重さを算出すること。</p>			
<p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原点Oを通る直線のグラフをかき、<math>y = 120</math> のときの <math>x</math> 座標を読む。(解答類型1)</li> <li><math>y</math> を <math>x</math> の比例の式で表し、その式に <math>y = 120</math> を代入し、<math>x</math> の値を求める。(解答類型5)</li> <li>表の数値を用いて比例定数を調べ、その比例定数で砂が落ちきるまでの時間が120秒になる砂の重さを計算する。(解答類型9)</li> </ul>			
1	<p>(a)、(b)について文で記述しているもの。                      又は、実際にグラフをかき、<math>y = 120</math> のときの <math>x</math> 座標を読むことについて記述しているもの。【◎】</p>	7.5	6.3
2	<p>(a)について「直線」についての記述がなかったり、                      (b)について「<math>y = 120</math>」の記述がなかったりするが、                      グラフを用いることとその使い方について記述しているもの。【○】</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフの2つの点を結んで、<math>y = 120</math> のときの <math>x</math> の値を読む。</li> <li>原点Oを通る直線のグラフをかき、<math>x</math> 座標を読む。</li> </ul>	0.0	0.3
3	<p>(a)のみを記述しているもの。(a)について「直線」                      についての記述がないものを含む。)</p>	13.8	14.7
4	<p>(b)のみを記述しているもの。(b)について「<math>y = 1</math></p>	0.6	0.8

	20」の記述がないものを含む。)		
5	(c)、(d)について文で記述しているもの。 又は、実際に比例の式又は一次関数の式を求めて、 $y = 120$ を代入してxの値を求めることについて記述しているもの。【◎】	3.1	5.4
6	(c)について「比例」又は「一次関数」についての記述がなかったり、(d)について「 $y = 120$ 」の記述がなかったりするが、式を用いることとその使い方について記述しているもの。【○】 (正答例) ・ 式で表し、 $y = 120$ を代入してxの値を求める。  ・ yをxの比例の式で表し、yに時間を代入してxの値を求める。	0.6	0.4
7	(c)のみを記述しているもの。(c)について「比例」又は「一次関数」についての記述がないものを含む。)	6.9	6.1
8	(d)のみを記述しているもの。 (d)について「 $y = 120$ 」の記述がないものを含む。)	0.0	0.1
9	(e)、(f)について文で記述しているもの。 又は、実際に表や数値から変化の割合について調べて、砂がすべて落ちきるまでの時間が120秒になる砂の重さを求めることについて記述しているもの。【◎】	11.3	14.8
10	(e)について「割合」についての記述が十分でなかったり、(f)について求める砂の重さの記述が十分でなかったりするが、表や数値を用いることとその使い方について記述しているもの。【○】 (正答例) ・ 表の数値を用いて、砂がすべて落ちきるまでの時間が120秒になる砂の重さを求める。  ・ 25gあたりに12秒はかることができることを用いて、砂の重さを計算する。	0.6	0.5
11	(e)のみを記述しているもの。(e)について「割合」についての記述が十分でないものを含む。)	4.4	4.8
12	(f)のみを記述しているもの。(f)について求める砂の重さの記述が十分でないものを含む。)	1.3	1.5
	・ 上記以外の解答	20.6	19.5
	・ 無解答	29.4	24.7

正答率は23.1%であり、全国平均正答率の27.7%を4.6ポイント下回っている。

### ③指導の改善事項

「上記以外の解答」と「無解答」の割合が高い。日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるように指



導することが大切である。

様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明できるように指導することが大切である。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導することが大切である。

(6) 資料の活用

①出題の趣旨

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。《問題8(3)》

②解答状況

生徒数の割合 (%)

解 答 類 型		国東市	全 国
(正答の条件) 次の(a)、(b)について記述しているもの。 (a) 6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にあること。 (b) 日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあること。			
(正答例) ・ 2つの度数分布多角形が同じような形で、6時間未満の度数分布多角形よりも6時間以上の度数分布多角形の方が右側にある。したがって、日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある。 (解答類型1)			
1	(a)、(b)について記述しているもの。【◎】	3. 8	3. 1
2	(a)のみを記述しているもの。【○】 (正答例) ・ 2つの度数分布多角形において、6時間未満よりも6時間以上の方が右側にあるから。 ・ 2つの度数分布多角形において、6時間以上よりも6時間未満の方が左側にあるから。	6. 9	8. 0
3	(a)について、2つの度数分布多角形の位置が異なることのみを記述しているもの。(b)についての記述がないものを含む。	1. 9	0. 3
4	2つの度数分布多角形の形状のみを記述しているもの。	3. 8	4. 7
5	2つの度数分布多角形の山の高さの比較について記述しているもの。	1. 9	3. 1
6	上記5以外で、度数分布多角形について、最小値、最大値、最頻値(度数が最大の階級の真ん中の値)など、ある点を比較して記述しているもの。	6. 3	5. 8
7	度数分布多角形の相対度数に着目して記述しているもの。	9. 4	8. 1

8	上記以外で、度数分布多角形から読み取れることを記述しているもの。(b)についての記述がないものを含む。	1. 3	1. 6
9	(a)について、度数分布多角形を根拠にしているが、読み取りを誤って記述しているもの。(b)についての記述がないものを含む。	0. 0	0. 1
10	度数分布多角形の読み取りを誤って記述しているもの。	0. 6	1. 4
・ 上記以外の解答		3 3. 8	3 1. 6
・ 無解答		3 0. 6	3 2. 2

正答率は10. 6%であり、全国平均正答率の11. 1%を0. 5ポイント下回っている。

### ③指導の改善事項

「上記以外の解答」と「無解答」の割合が高い。「上記以外の解答」として横軸を気温と捉え、気温が高いことから気温差が大きい傾向にあることを説明しようとしていたと考えられる。「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題がある。

データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切である。

## (7) 図形

### ①出題の趣旨

ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができるかどうかをみる。《問題9 (3)》

### ②解答状況

生徒数の割合 (%)

解答類型		国東市	全国
1	$\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ のそれぞれの大きさは変わらないことを解答しているもの。【◎】 ( $\angle ARG$ の大きさは変わらないこと、 $\angle ASG$ の大きさは変わらないことのいずれかを解答しているものを含む。)	1 6. 3	1 6. 0
2	$\angle ARG = 105^\circ$ であり、 $\angle ASG = 75^\circ$ であることを解答しているもの。【◎】 ( $\angle ARG = 105^\circ$ であること、 $\angle ASG = 75^\circ$ であることのいずれかを解答しているものを含む。)	1. 9	2. 6
3	上記1、2以外で、 $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ の大きさについて成り立つことを解答しているもの。【◎】	8. 1	1 0. 1
4	$\angle ARG + \angle ASG = 180^\circ$ と解答しているもの。	5. 6	8. 9
5	$\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ のそれぞれの大きさは大きくなったり、小さくなったりすることを解答しているもの。	0. 6	1. 6

・ 上記以外の解答	36.3	32.0
・ 無解答	31.3	28.7

正答率は26.3%であり、全国平均正答率の28.8%を2.5ポイント下回っている。

### ③指導の改善事項

全問題の中で「無解答」の割合が一番高い。「上記以外の解答」として「 $\angle ARG = \angle ASG$ 」等「無解答」ではないが $\angle ARG$ と $\angle ASG$ を用いて正答でない解答を記述していると考えられる。

条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することができるように指導することが大切である。

## 【数学】

### 3 指導の改善ポイント（全体を通して）

#### (1) 数と式

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する活動を重視することが大切である。

数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する活動を充実することが大切である。

#### (2) 図形

円と扇形との比較を通して、扇形の特徴を的確に捉える活動を重視することが大切である。

ある条件の下で成り立つ事柄を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。

#### (3) 関数

関数の意味を理解するために、二つの数量について、変化や対応の様子に着目してその関係を的確に捉える活動を重視することが大切である。

事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実することが大切である。

#### (4) データの活用

相対度数の必要性や意味を理解するために、大きさの異なる二つ以上の集団のデータの傾向を比べる活動を重視することが大切である。

判断の理由を説明するために、データの傾向を的確に捉えて判断できる活動を充実することが大切である。

#### (5) その他

- ・ 数学的な活動を充実させ、問題解決に向けて、見通しや目的意識を持たせ、振り返らせる活動を位置づける。
- ・ 自分の考えを深めるための書く活動や相手に分かりやすく説明するための書く活動を取り入れ、学習の流れが分かり振り返りのできるノート指導に努める。

## 【参考・引用】

令和3年度全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省・国立教育政策研究所）

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査

国東市教育委員会  
学校教育課

# RO3全国学力・学習状況調査結果

正答率(%)

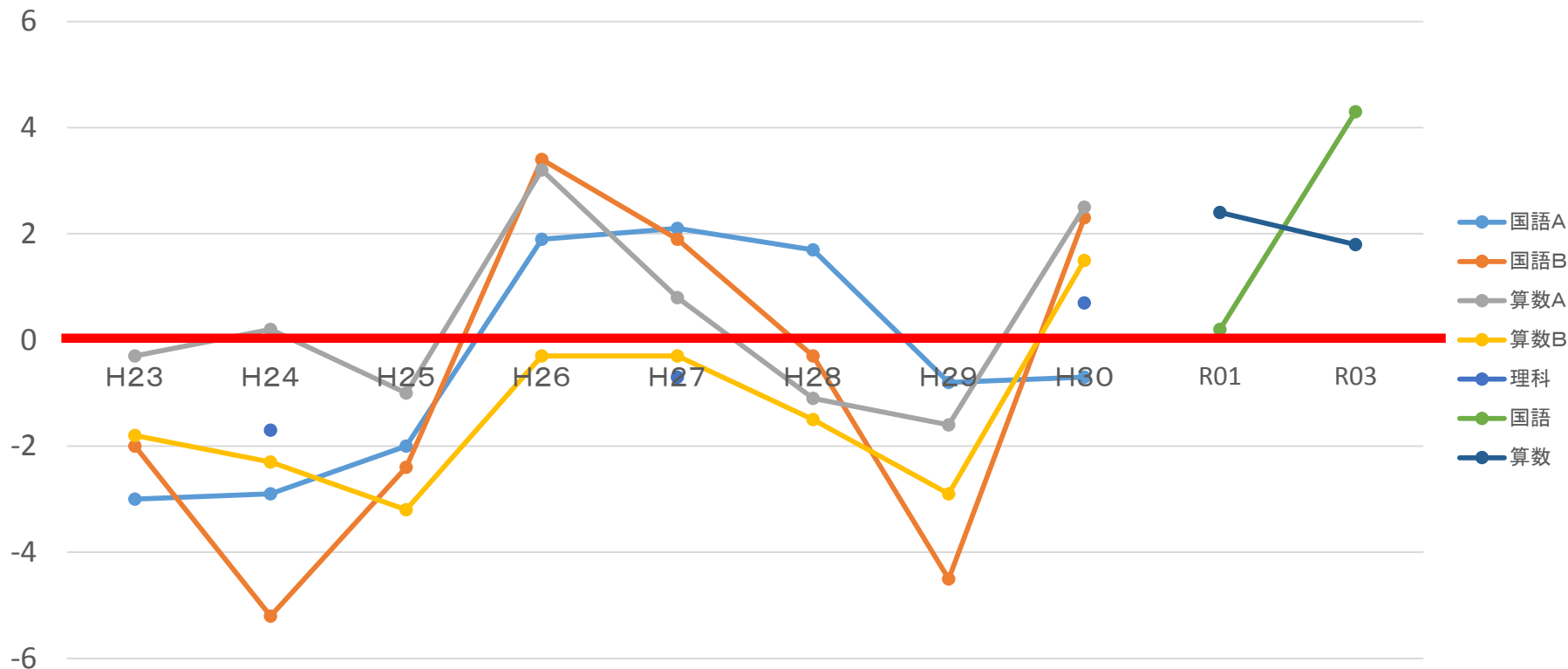
	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
国東市	69	72	67	55
全国	64.7	70.2	64.6	57.2
全国との差	4.3	1.8	2.4	-2.2
大分県	66	70	66	57
大分県との差	3.0	2.0	1.0	-2.0

# RO1全国学力・学習状況調査結果

正答率(%)

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
国東市	64	69	76	60	57
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0
全国との差	0.2	2.4	3.2	0.2	1
大分県	67	67	74	61	55
大分県との差	-3	2	2	-1	2

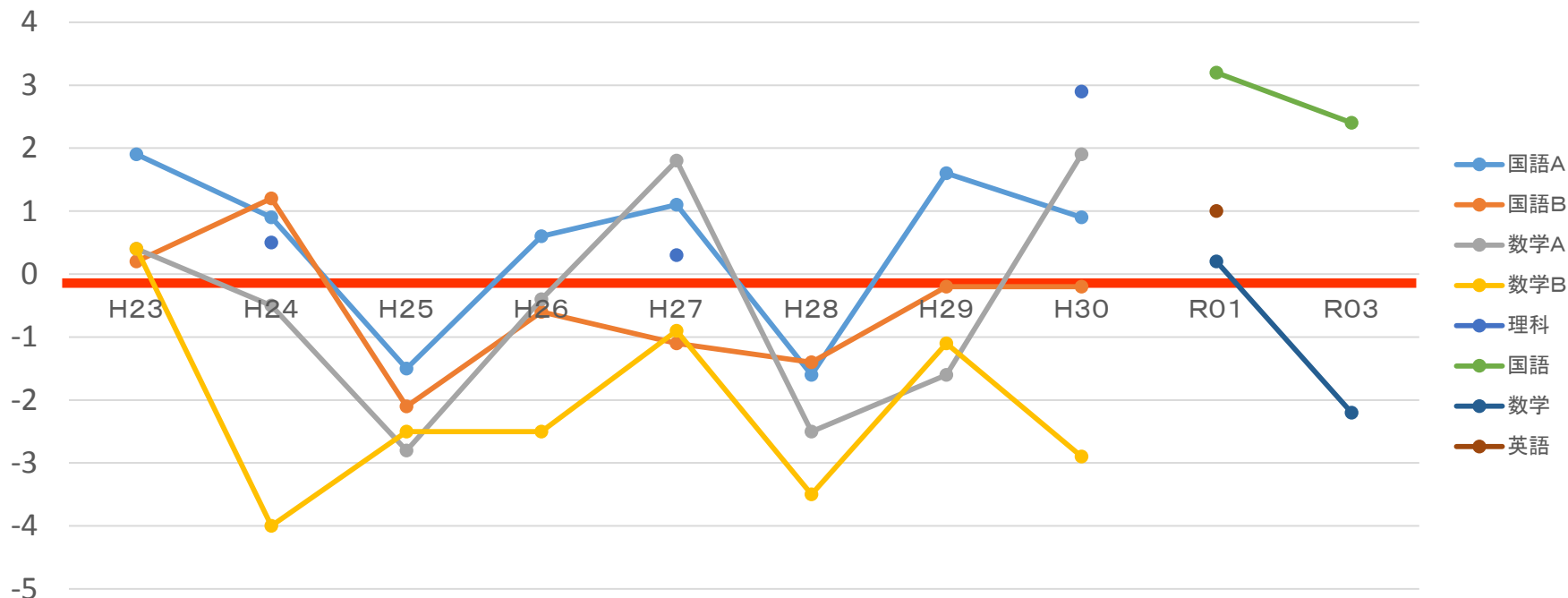
# 全国学力・学習状況調査：国東市と全国との正答率の差の推移（小学校）



(ポイント)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03
国語A	-3	-2.9	-2	1.9	2.1	1.7	-0.8	-0.7	0.2	4.3
国語B	-2	-5.2	-2.4	3.4	1.9	-0.3	-4.5	2.3		
算数A	-0.3	0.2	-1	3.2	0.8	-1.1	-1.6	2.5	2.4	1.8
算数B	-1.8	-2.3	-3.2	-0.3	-0.3	-1.5	-2.9	1.5		
理科		-1.7			-0.7			0.7		

# 全国学力・学習状況調査：国東市と全国との正答率の差の推移（中学校）



(ポイント)

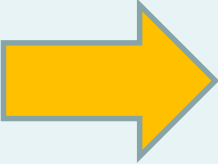
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03
国語A	1.9	0.9	-1.5	0.6	1.1	-1.6	1.6	0.9	3.2	2.4
国語B	0.2	1.2	-2.1	-0.6	-1.1	-1.4	-0.2	-0.2		
数学A	0.4	-0.5	-2.8	-0.4	1.8	-2.5	-1.6	1.9	0.2	-2.2
数学B	0.4	-4	-2.5	-2.5	-0.9	-3.5	-1.1	-2.9		
理科		0.5				0.3		2.9		
英語									1	



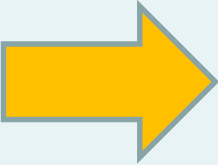
# 全国学力学習状況調査（国東市同一児童生徒の全国との差の伸び）

（国東市と全国との平均正答率の差の変化）

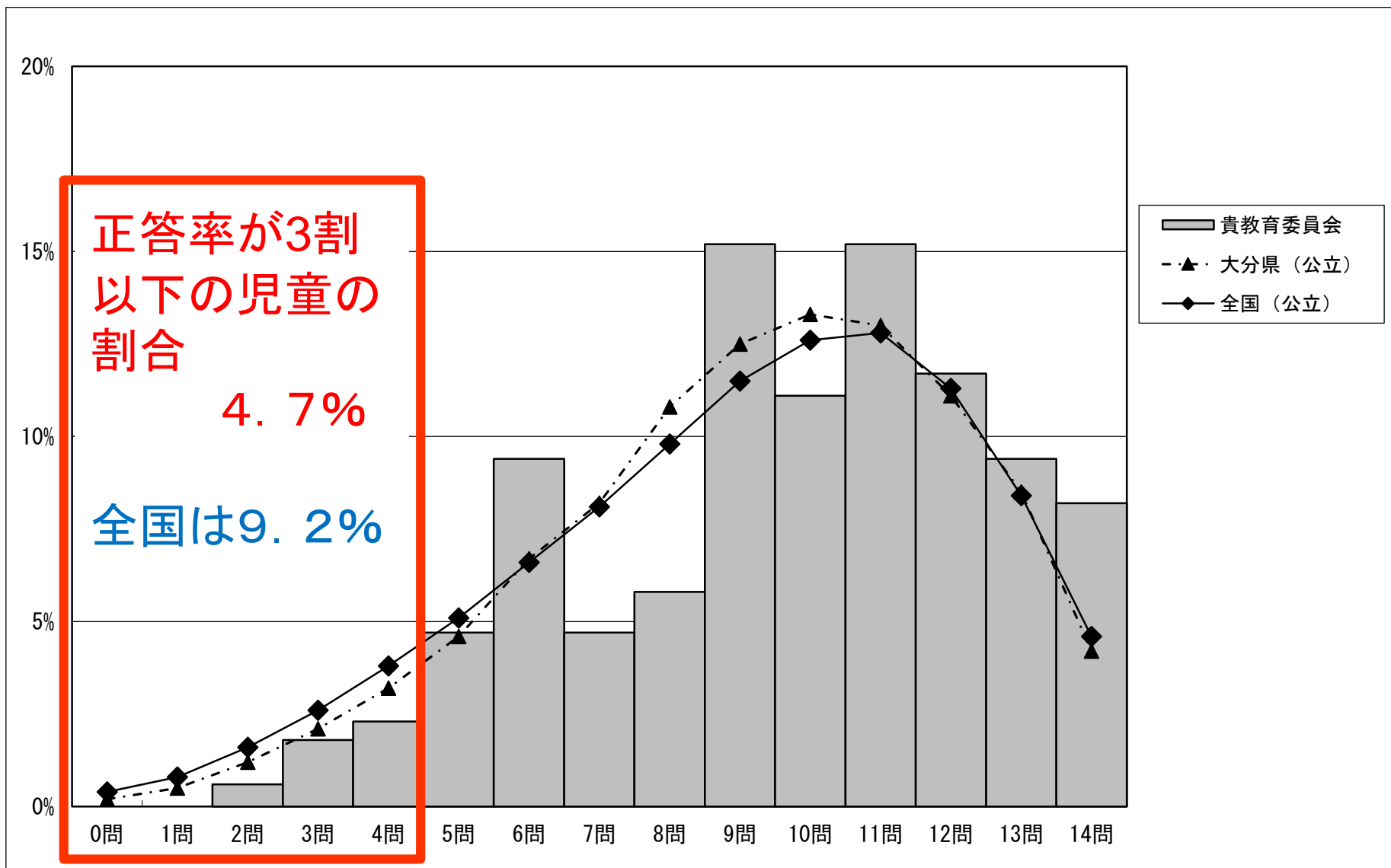
## 令和3年度実施結果

	H30の小6	3年後	R03の中3
国語A	-0.7		+2.4
国語B	+2.3		
算数・数学A	+2.5		-2.2
算数・数学B	+1.5		

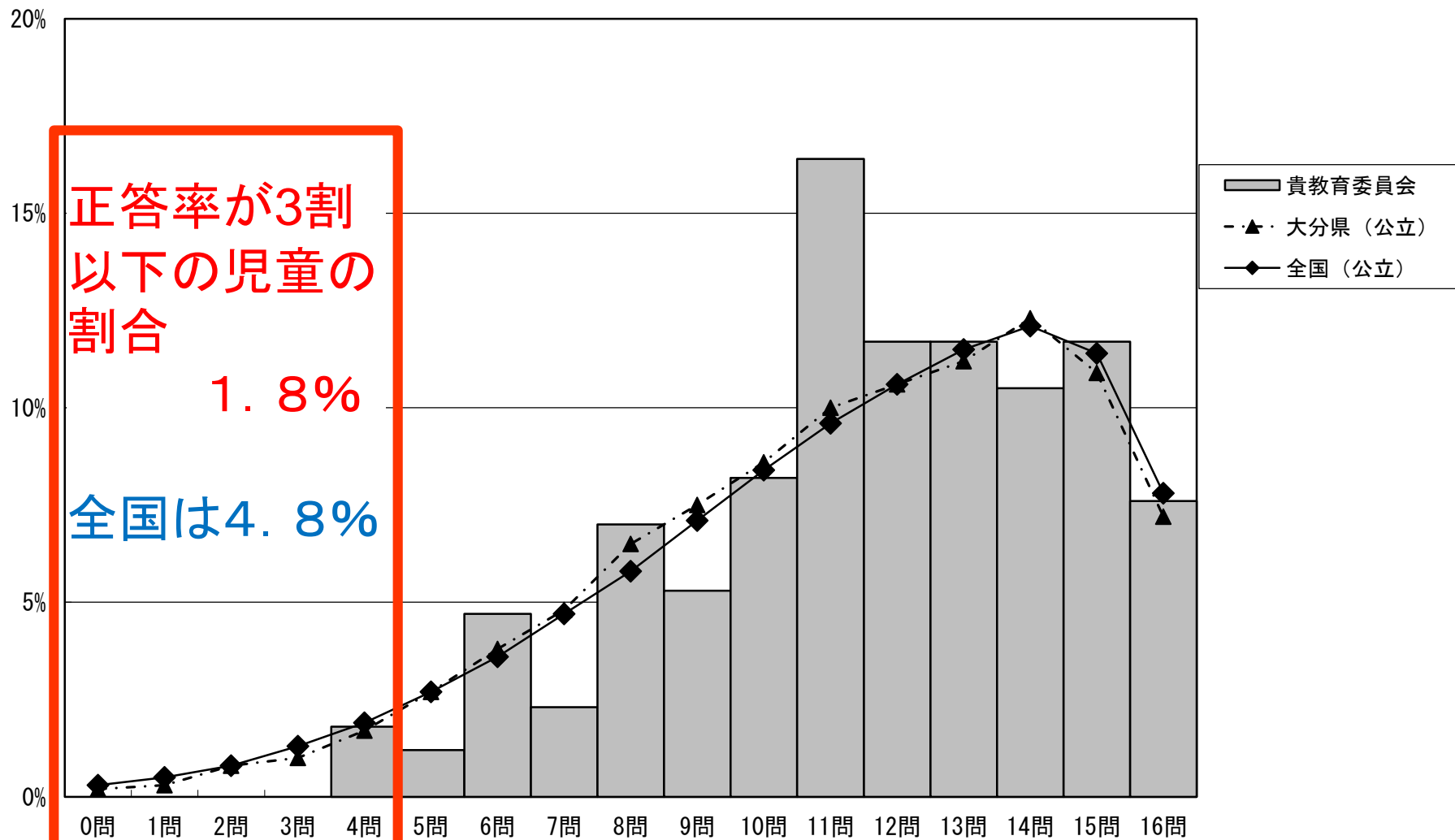
## 令和元年度実施結果

	H28の小6	3年後	R01の中3
国語A	+1.7		+3.2
国語B	-0.3		
算数・数学A	-1.1		+0.2
算数・数学B	-1.5		
英語			+1.0

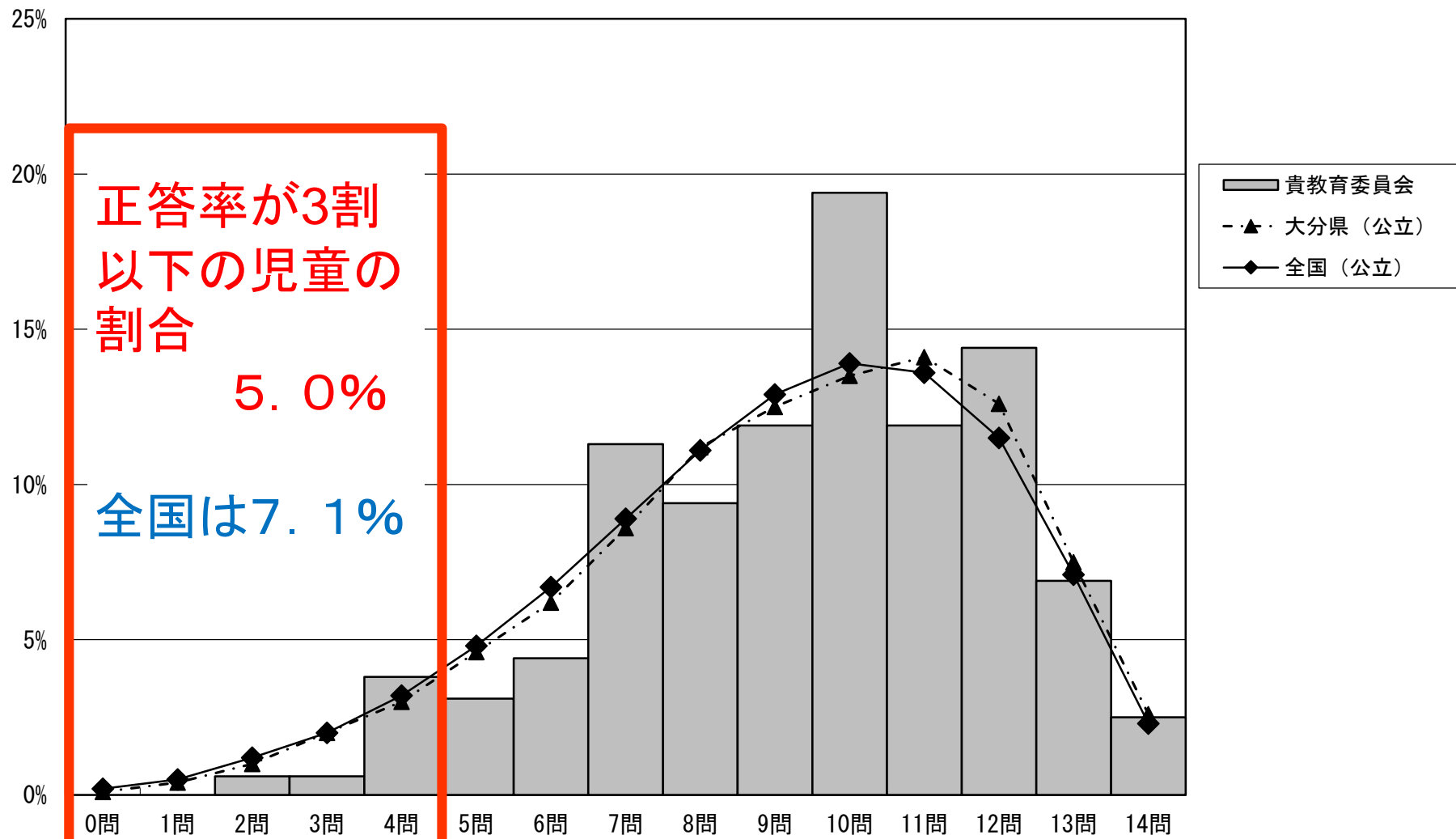
# R03 全国学力・学習状況調査（国東市小学校国語度数分布）



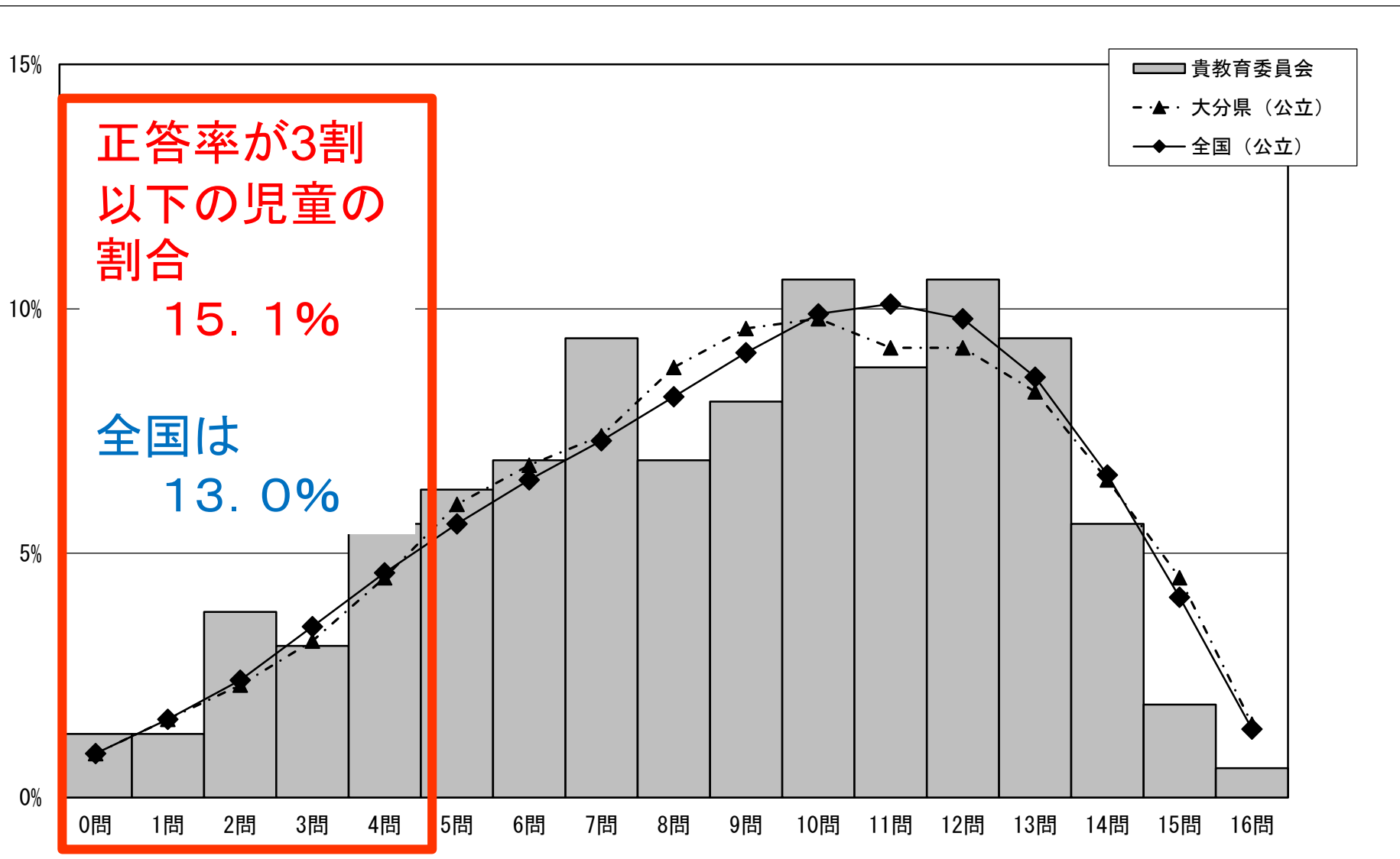
# R03 全国学力・学習状況調査（国東市小学校算数度数分布）



# R03 全国学力・学習状況調査（国東市中学校国語度数分布）



# R03 全国学力・学習状況調査（国東市中学校数学度数分布）



# R03全国学力・学習状況調査(国東市小学校別正答率一覧)

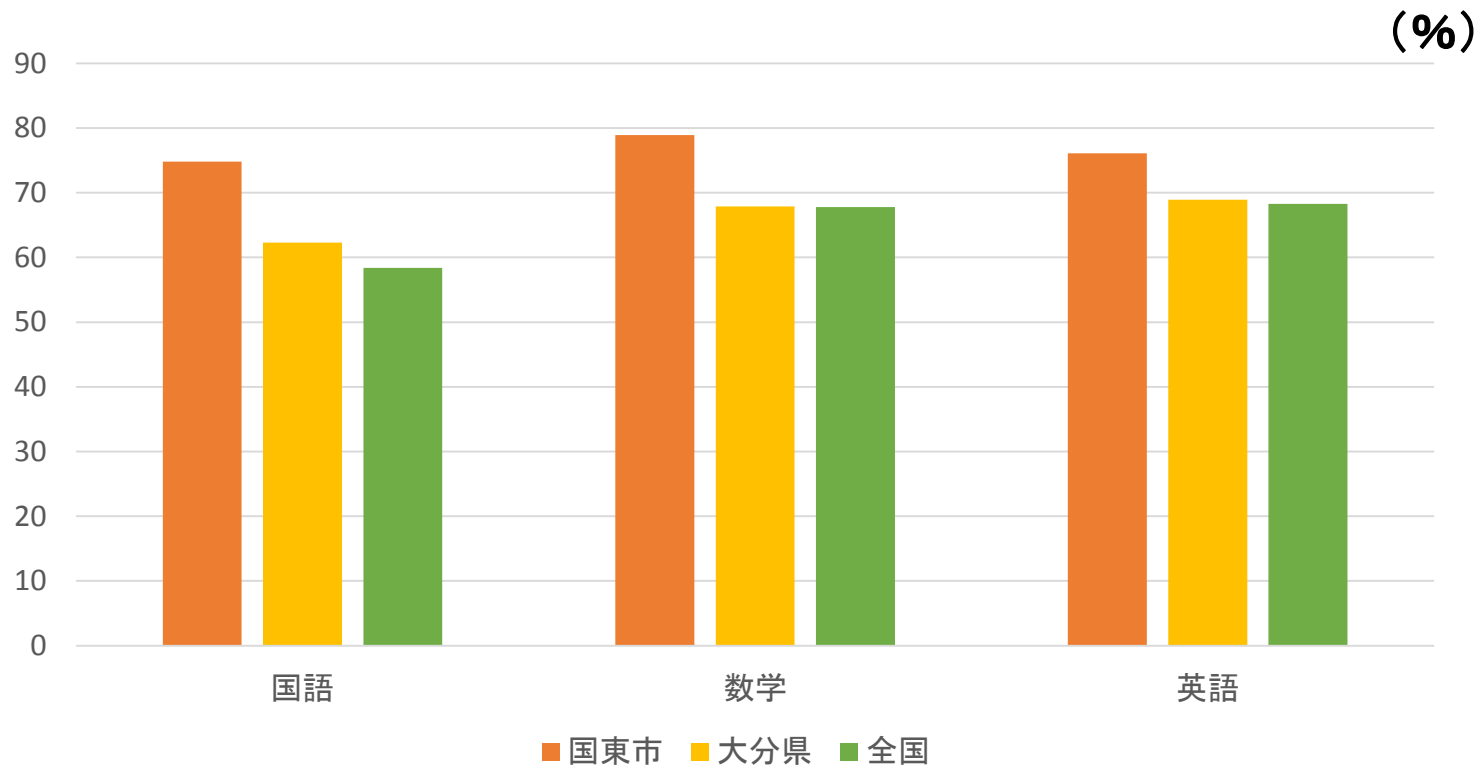
小6

	国語	算数	合計
国東市	69	72	141
全国	64.7	70.2	134.9
大分県	66	70	136
A小	65	73	138
B小	75	80	155
C小	64	64	128
D小	71	75	146
E小	56	72	128
F小	69	65	134
G小	65	72	137
H小	72	76	148
I小	70	71	141
J小	77	75	152
		は全国平均を超えた項目	

	国語	数学	合計
国東市	67	55	122
全国	64.6	57.2	121.8
大分県	66	57	123
A中	75	60	135
B中	67	53	120
C中	63	46	109
D中	68	62	130
		は全国平均を超えた項目	

## R03 全国学力・学習状況調査(小学生生徒質問紙調査より)

教科等の勉強が好きですか？ に対して  
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合

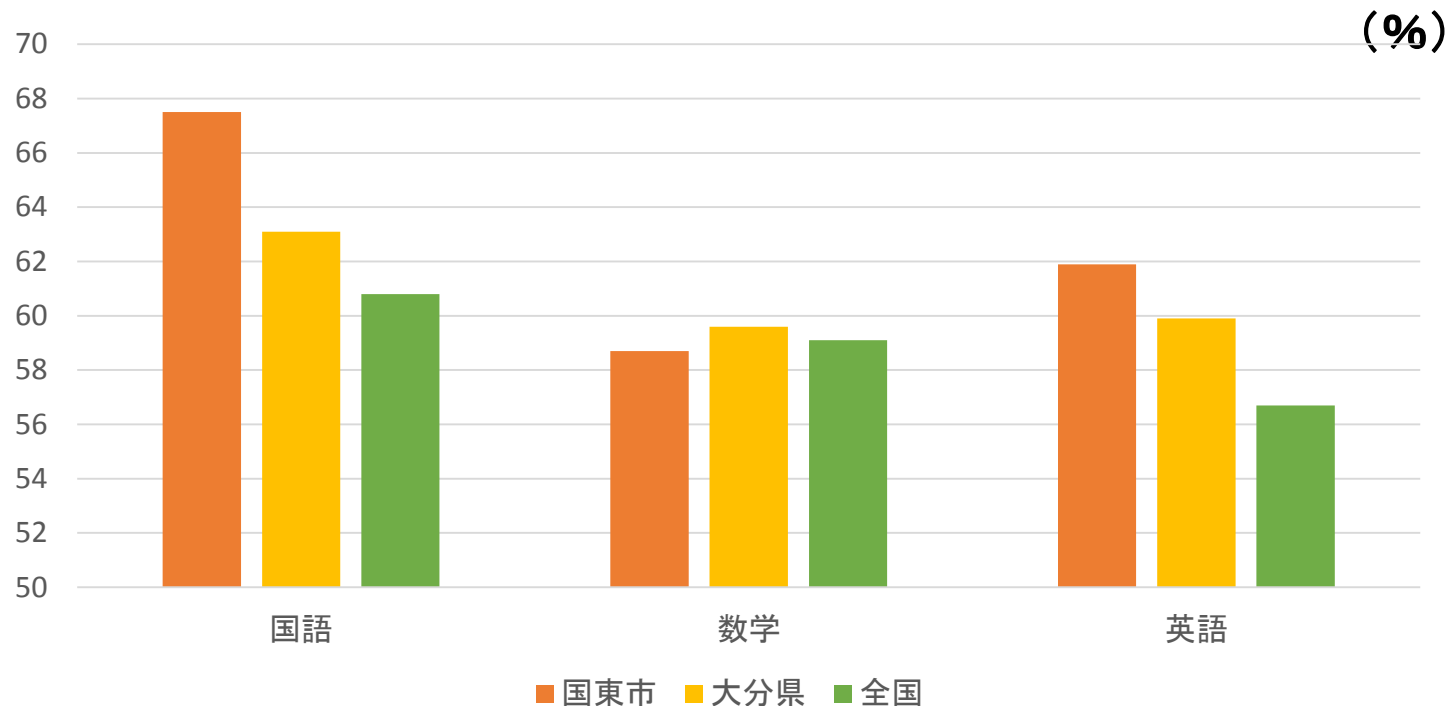


	国語	数学	英語
国東市	74.8	78.9	76.1
大分県	62.3	67.9	68.9
全国	58.4	67.8	68.3



## R03 全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査より)

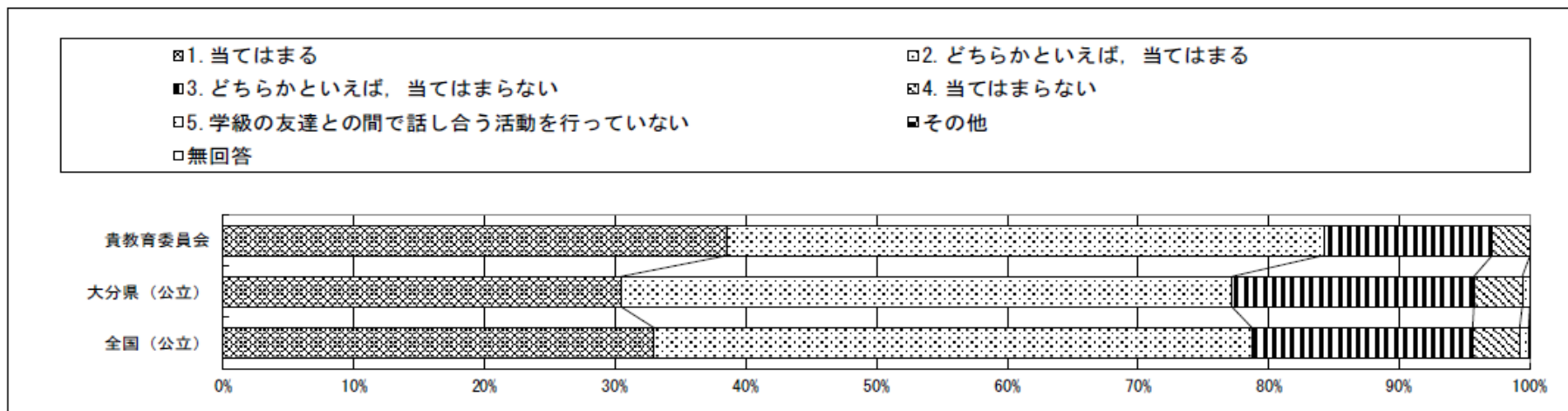
教科等の勉強が好きですか？ に対して  
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合



	国語	数学	英語
国東市	67.5	58.7	61.9
大分県	63.1	59.6	59.9
全国	60.8	59.1	56.7

# R03全国学力・学習状況調査(小学校児童質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(37)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	38.6	45.6	12.9	2.9	0.0					0.0	0.0
大分県(公立)	30.4	46.7	18.5	3.7	0.6					0.0	0.0
全国(公立)	33.0	45.8	16.9	3.6	0.7					0.0	0.1

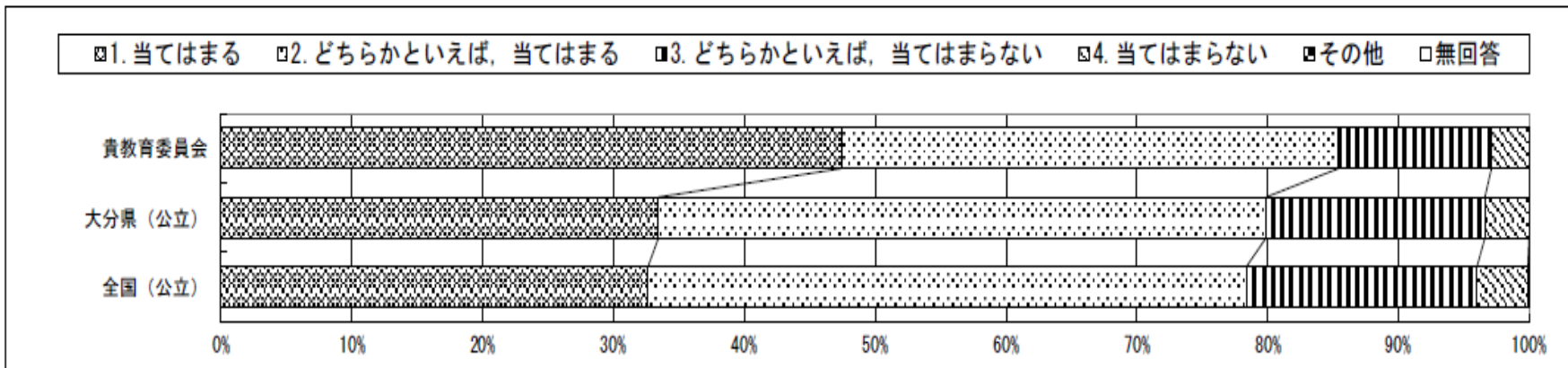


<児童が回答した選択肢別の平均正答率(国東市)>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	66	38.6	72.0	75.4
2	どちらかといえば、当てはまる	78	45.6	69.2	72.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	22	12.9	63.6	68.5
4	当てはまらない	5	2.9	51.4	51.3
5	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	0	0.0		

# R03全国学力・学習状況調査(小学校児童質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(38)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	47.4	38.0	11.7	2.9						0.0	0.0
大分県(公立)	33.4	46.4	16.7	3.4						0.0	0.0
全国(公立)	32.6	45.7	17.6	3.9						0.0	0.1

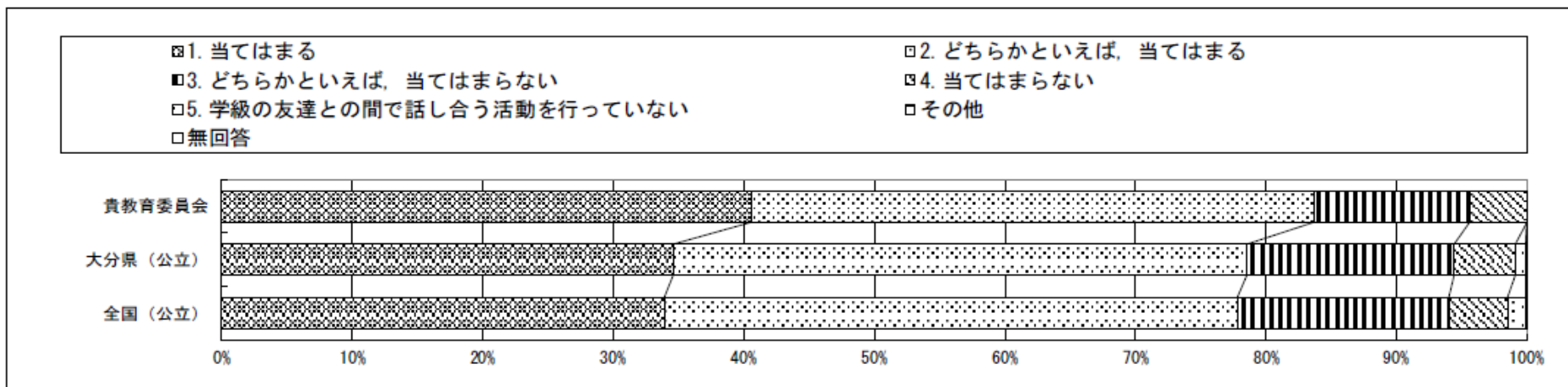


<児童が回答した選択肢別の平均正答率(国東市)>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	81	47.4	71.5	75.5
2	どちらかといえば、当てはまる	65	38.0	68.2	70.8
3	どちらかといえば、当てはまらない	20	11.7	61.1	65.0
4	当てはまらない	5	2.9	71.4	75.0

# R03全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(37)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	40.6	43.1	11.9	4.4	0.0					0.0	0.0
大分県(公立)	34.6	44.0	15.9	4.7	0.8					0.0	0.1
全国(公立)	33.9	43.9	16.2	4.5	1.4					0.0	0.1

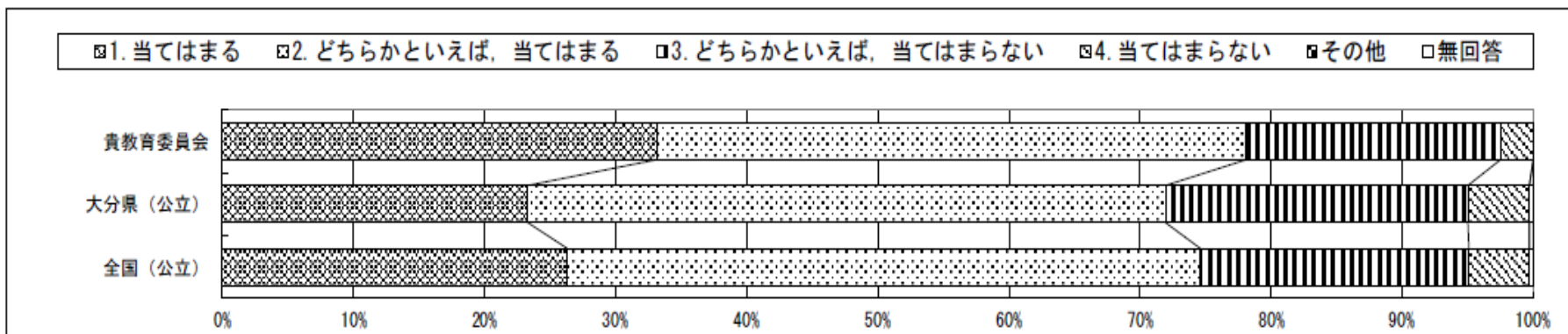


<生徒が回答した選択肢別の平均正答率(国東市)>

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	数学(16問)
1	当てはまる	65	40.6	69.9	55.2
2	どちらかといえば、当てはまる	69	43.1	65.1	55.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	19	11.9	64.7	53.9
4	当てはまらない	7	4.4	71.4	50.0
5	学級の友達との間で話し合う活動を行っていない	0	0.0		

# R03全国学力・学習状況調査(中学校生徒質問紙調査結果から)

質問番号	質問事項										
(38)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	33.1	45.0	19.4	2.5						0.0	0.0
大分県(公立)	23.3	48.7	23.1	4.7						0.0	0.3
全国(公立)	26.3	48.3	20.5	4.6						0.0	0.3



<生徒が回答した選択肢別の平均正答率(国東市)>

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	数学(16問)
1	当てはまる	53	33.1	68.3	59.8
2	どちらかといえば、当てはまる	72	45.0	67.1	53.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	31	19.4	65.0	49.4
4	当てはまらない	4	2.5	75.0	57.8

# 全国学力調査の結果から

## ○正答率3割未満の児童生徒割合（全国との比較）

小学校・・・国語・算数ともに全国よりも少ない

中学校・・・国語は全国よりも少ないが、数学は全国よりも多い

→全員が参加できる授業づくりを学校全体で推進

## ○教科への愛好度

県や全国よりも愛好度は高い

→今後も児童生徒が主体の「わかる・楽しい」授業づくりを

## ○授業中の話し合い活動

小学校、中学校ともに肯定率が高い←授業改善の成果

話し合い活動に対して肯定的な児童生徒の平均正答率は高い

→全員が参加し、全員で深め合う話し合い活動を

## ○授業の振り返り

全国よりも肯定的な回答が多いが、「当てはまらない」との回答もある

→視点を明確にした振り返りを行い、学習を深めたり次時につなげたりする